

# しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

# 芝生教室



先生：りん (P) という肥料成分が厄介な性格なのはわかってもらえたかしら？

生徒：はい、芝生にはチッソ、カリなどに比べて少ない量で良いけれど土壤中で固定されてしまっただけでなく良いタイミングで十分吸収させることができないのですね・・・

先生：その通りね・・・それだけではなくチッソと違ってどんどん土壤中に固定されて溜まってしまおうので土壌のバランスも崩してしまうわ・・・

生徒：そういえばリンが多いとカタビラが増えるという話を聞いた事があるのですが本当ですか？

先生：よく言われることね・・・リンは植物の実の結実を助ける働きがあるわね。だからリンが多いとカタビラの実の結実を良くさせてしまうので、カタビラの発芽率が良くなってしま・・・

生徒：なるほど・・・グリーンの中でも頻りに穂をつけるカタビラの種の発芽率が良くなるって恐ろしい事ですね・・・

先生：ほんとにそうね・・・それに加えて養分バランスが悪くてチッソ不足の施肥管理ではベントグラスよりカタビラの方が生育が旺盛になるからカタビラの比率が確実に増えていくことになるでしょうね・・・

生徒：悪循環ですね・・・

先生：しかもカタビラに有利な施肥管理ではベントグラスは十分な生育をしていないから除草剤や出穂抑制剤なんて使えば薬害が簡単に出現してしまうわ・・・

生徒：養分管理を一步間違えると恐ろしい悪循環になってしまうんですね・・・

先生：そう、植物の三大要素、チッソ (N)・リン (P)・カリ (K) のそれぞれの特徴と性格、芝生の必要としている量を正しく理解して土壌分析と施肥計画をきちんとしないと知らないうちに厄介なことになってしまうわね・・・第15回でカタビラとチッソ施肥について話しているのでもう一度参考にしてほしいわね・・・

生徒：やはり芝生の管理で重要なのはチッソ施肥が第一なのですね・・・

先生：そう言っていてと思うわ・・・

生徒：ではリン肥料の施肥計画についての基本的な考え方ってどう考えればよいのでしょうか？

先生：何度も言うようにリンは

実の結実に重要な働きをすると考えられているので芝生のように実を必要としない植物には基本的にさほど重要ではないけれど、チッソ、カリに比べて少量とはいえ植物を構成する重要な元素であることは間違いのないわ・・・リンは植物全体に均一に存在するのではなく、特に根や葉などの先端の細胞分裂を多くしている部位にたくさん見られるわね・・・だから芝生においては芝生の初期の成育や根の成長に重要と考えられているわ・・・芝生の種子を播種したり張芝をしたりしたときは多くリンを施肥することによって初期の生育を助けて早期に芝生を成立させることができると考えられているわ・・・冬の休眠から春の生育時や夏のストレスで根が上がった状態から秋に向けて回復させるときなどにも必要と考えられるわね・・・

生徒：と言う事は量よりも施肥のタイミングが重要なんですね・・・

先生：そうね、一般的に芝生の肥料は 24-5-11 のようなリン成分の低いいわゆる谷型の配合になっているのが普通だけど 10-21-10 のような山型の配合になっているものもたまにあるわね・・・そのような芝生の肥料を『スタータータイプ』と呼んでいるわ・・・

生徒：芝生をスタートさせるって言う事ですか？

先生：そう、種をまいた時や芝張り後の初期生育を助けるため、あるいは冬の休眠や夏場の根上がりからの回復などのタイミングで使用するのが基本ね・・・

生徒：そのようなタイミングでは必ずリン肥料が必要になると言う事ですか？

先生：そこが難しいところ・・・春先のタイミングはカタビラも旺盛になるからリン肥料を増やさない方がいいという考え方もあるし、すでに土壤中に多くリンが存在するようであればあえてまかなくてもいいという事もいえるわ・・・あくまでも土壌のリンが適正値である場合の事になるわね・・・とにかくリンは厄介なのよ、芝生にとってはチッソの方が重要だから昔からさまざまな研究、技術が開発されてきているけれど、リン肥料の研究や施肥効率を上げる資材も徐々に開発されつつあるから今後はそれらをうまく利用してリンの施肥効率を上げることが重要になっていくでしょうね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp

